

コンサルティングの事業拡大の一環として「THE CAMPUS」で行動データを可視化

その知見を活かし「ワークプレイスダッシュボード」の提供へ

約2,000人×1分毎
(コクヨ全体)

100件以上

約2,000人の位置情報を1分毎に取得しており、蓄積されるデータ量が膨大に。Tableau はこれを問題なく、軽快に取り扱える。

訪問客からの位置情報可視化に関する問い合わせが100件以上に。新たな提案につなげる営業ツールとしても貢献。

コクヨ株式会社

<https://www.kokuyo.co.jp/>

KOKUYO

業種：文具製造販売、オフィス家具製造販売、オフィス空間デザイン等

従業員数：連結 6,825名、単体 2,207名
(2021年12月末現在)

資本金：158億円

所在地：〒537-8686

大阪市東成区大今里南6-1-1

事業内容：1905年に創業。コクヨグループとして文具やオフィス家具の製造・販売を行う他、オフィス通販「カウネット」の運営や、オフィス設計や空間デザイン、コンサルティングなども手掛けている。企業理念は「創造性を刺激し続け、世の中の個性を輝かせる」ことを意味する「be Unique.」。サステナブルな長期視点の経営を重視し、経済価値向上と社会価値向上の両立を目指している。

導入の背景

「森林経営モデル」の一環として「THE CAMPUS」をオープン
グループ共通資産を「土壌」とし、その上で複数の事業の「幹」を育てていくという「森林経営モデル」。土壌の1つとしてデータ分析を重視しており、その実践の場として「THE CAMPUS」をオープン。

解決策

Tableau 活用を自ら実践し、その知見から新たなサービスを実現
「THE CAMPUS」で社員の位置情報を取得し、Tableau で可視化。その知見を活かし、2022年11月に「ワークプレイスダッシュボード」をリリース。

導入後の効果

仮説検証が容易になり、営業ツールとしても大きく貢献
多様なデータを掛け合わせた、多面的な仮説検証が容易になり、施策の立案・実施も自信を持って行えるように。また働く場所や時間を自由に選ぶ働き方＝ABW (Activity Based Working) を可視化したVizは、顧客に新たな提案を行うためのツールとしても貢献。

選定理由

膨大なデータを軽快に扱えることや、洗練されたVizを評価
毎分2,000件の位置情報取得で得られる膨大なデータを軽快に取り扱うことが可能。また洗練されたビジュアルや、フィルタリングしながら仮説検証しやすいことも評価。

導入時期：2021年2月

導入製品：Tableau Cloud

主な利用環境：働き方の実験場「THE CAMPUS」での位置情報などの分析、その知見を活かした「ワークプレイスダッシュボード」の提供基盤

導入に要した期間：約半年

お客様プロフィール



お名前：伊藤 毅様
 役 職：グループマネージャー
 部門名：ワークスタイルイノベーション部
 主な担当業務：働き方・働く場のコンサルティングサービスの提供
 THE CAMPUSにおけるデータ活用

導入の背景

「森林経営モデル」の一環として「THE CAMPUS」をオープン

文具・オフィス家具の提供や、オフィス設計・空間デザインなどを通じて、「働く」「学ぶ」「暮らす」に関する様々なニーズに応え続けているコクヨ株式会社。2021年2月には「長期ビジョンCCC2030」を取締役会で決議し、戦略投資による事業創出と領域拡大を推進しています。「CCC」とは「Change」「Challenge」「Create」の頭文字取ったもの。そのビジョンの核となっているのが「森林経営モデル」へのシフトです。

「森林経営モデルとは、グループ共通資産である実験カルチャーを『土壌』とし、その上で複数の事業の『幹』を育て、数多くの事業で構成される『森』を作り上げていこうという考え方です」と説明するのは、コクヨワークスタイルイノベーション部でグループマネージャーを務める伊藤 毅氏。この「土壌」の一つとして重視されているのが、データ活用だと言います。

「新たな事業の幹を生み出すには異なるアプローチの検証が必要です。お客様の働き方に関する新たな価値創造を行うには、実際のオフィスでの人々の動きや、オフィス空間の使われ方なども可視化し、そのデータを活用した提案を行うことが求められつつあります」。

そのための第一歩として行われたのが、2021年2月の「THE CAMPUS」のオープン。これは「働き方の実験場」であり、働く人の位置情報などを取得する仕組みを組み込んでいます。それらのデータを可視化・分析する基盤として、Tableau Cloudが活用されています。

Tableau 導入・運用環境

Tableau 活用を自ら実践し、その知見から新たなサービスを実現

THE CAMPUSでの働き方は、自分らしい働き方・学び方・暮らし方によりそう

「Life Based Working」を目指しています。そこで働く人々の位置はオフィス内に設置されたビーコンの仕組みで1分毎に取得され、



Tableauによって「フロア別活動量」や「ヒートマップ」などの形で可視化されます。

「Tableauによる可視化を行うため、まず2020年11月に情報システム部にヒートマップを作成してもらいました」と伊藤氏。しかしTHE CAMPUSをオープンしてからは、自らTableauを活用することで、仮説検証を繰り返してきたといいます。「2021年7月にはパートナーを交え、プロジェクトメンバーの手で、正式にTHE CAMPUS用のダッシュボードを開発しています」。

この間にセールスフォースのパートナーからトレーナーを招き、プロジェクトメンバー10名を対象としたTableauの基礎トレーニングも実施。さらに2021年9月にも、Tableauの応用編に関するトレーニングを実施しているといいます。「自ら実践することで、Tableauで何ができるのか、今後のコンサルティングにどのような形で活かせるのか、具体的にイメージできるようになりました」。

さらに2022年1月には、THE CAMPUSで培った知見を顧客に提供する「ワークプレイスダッシュボード」を起案。同年7月にその開発に着手し、2022年11月にリリースしています。

これは働き方に関する各種データをお客様から受け取り、TableauのVizで可視化するというもの。オフィス空間での活動データに加え、バーチャル空間での活動データも取り込み、働き方を多面的に分析できるサービスにすることが目指されています。

Tableau 選定の理由

膨大なデータを軽快に扱えることや、洗練されたVizを評価

これら一連の取り組みを行う基盤としてTableauを選じた理由について、「情報システム部門から推薦されたからです」と伊藤氏。しかし実際に使うことで、改めていくつかの優位点を感じるようになったと語ります。

その1つが取り扱えるデータ量の多さです。

「約2,000人の位置情報を毎分取得しており、その件数は1時間で12万件、1日8時間として100万件近いデータが蓄積されています。以前使っていた他のBI製品では数千件までしかサンプリングできませんでしたが、Tableauはこれだけ膨大なデータを一気に扱うことができ、その動きも軽快です」。

またVizのビジュアルが洗練されていることや、膨大なデータをフィルタリングしながら仮説検証を行いやすいことも、Tableauの魅力の1つだと指摘します。

「長期ビジョンCCC2030のメッセージの中に『新しい働き方や学び方を生み出す』というものがありますが、TableauのVizなら『新しいことに取り組んでいる』という気持ちになりやすいですね」。

Tableau 導入の効果

仮説検証が容易に、営業ツールとしても大きく貢献

THE CAMPUSやワークプレイスダッシュボードでTableauを採用したことで、以下のようなメリットが生まれています。

多様なデータを掛け合わせた仮説検証が容易に

Tableauをデータ分析基盤にしたことで、ヒートマップでの可視化はもちろんのこと、複数のデータを掛け合わせた分析も容易になりました。また分析軸を切り替えることも容易なため、データを多様な視点から見ることが可能です。

「オフィス空間の利用実態が可視化されることで、どのような打ち手が適切なのかも明確になり、施策を立案・実施を自信を持って行えるようになりました。またアンケート調査では回答者の『その時々 の気持ち』が入り込みやすいのですが、位置情報は物理的なデータであるため、より実態に即した分析が可能です」。

顧客に対する営業ツールとしても大きく貢献

THE CAMPUSに実装しているVizは、営業ツールとしても大きな貢献を果たしています。

「日経新聞社に取材を受け、その記事が2021年8月に公開されたのですが、そこから20件近くの問い合わせをいただきました」と伊藤氏。その後もTHE CAMPUSを訪れた顧客から、位置情報の取得・分析に関する問い合わせを100件程度受けているといいます。

「働く場所や時間を自由に選ぶ働き方＝ABW（Activity Based Working）の導入を検討している企業様が最近増えていますが、実際の働き方を可視化してお見せすることで、具体的なイメージがつかみやすくなります。2022年11月にリリースしたワークプレイ

スダッシュボードも、お客様に新たな提案を行うためのフックとなる、重要なツールになると期待しています」。

おける「Tableau 仲間」を増やしていきたいと伊藤氏。またワークプレイスダッシュボードで提供する Viz の種類も増やしていく計画だと言います。

今後の展開について

ワークプレイスダッシュボードを 新たな事業の柱に

今後はデータを正しく取り扱える人材を育成すると共に、社内に

「具体的には、備品管理や経営指標ダッシュボードを作成し、これらをワークプレイスダッシュボードと連携させる、といったことを考えています。このようなサービスを実現できれば、データ分析は『新たな事業の幹を支える土壌』にとどまらず、そのものが『新たな事業の幹』になってくるはずで。これこそが将来に向けた、展望です」。

Q1. Tableau で感動したことは？

A1. 課題解決の高い可能性がある基盤

Tableau Prep で CSV ファイルの全データを一気に可視化したときは、私はもちろんのこと関係者全員の目の色が変わりました。課題感や目的意識を持っている人にとって、Tableau は非常に高い可能性のある基盤であると実感しました。

Q2. Tableau 導入後の変化は？

A2. データがコミュニケーションの重要手段に

セールスフォースと共に Tableau 活用を進めてきたことで、データ分析でできることが一気に増えました。今ではデータがコミュニケーションの重要手段になっており、これまで接点がなかった人ともデータでつながるようになっていきます。

Q3. Tableau でもっとしたいことは？

A3. Slack との連携

Tableau を Slack と連携させることで、人と人とのつながりを可視化したいと考えています。すでに位置情報の分析でリアル空間でのつながりはわかるようになっていますが、これに Slack を加えることでバーチャル空間へと広げていきます。

無料トライアル版をダウンロードして、ぜひ Tableau をお試しください。

<http://www.tableau.com/ja-jp/trial>

株式会社セールスフォース・ジャパン Tableau 事業統括